

高森町地域クラブ活動の展開に向けた検討委員会 会議記録

日時 令和7年11月20日(木) 19:00-20:30

会場 中央公民館 会議室1・2

(1)開会

(2)議事

1.国の検討状況について

2.持続可能な運営体制の構築について

- ・認定地域クラブの認定要件
- ・「認定地域クラブ活動指導者」登録制度
- ・地域クラブ活動に係る費用負担の在り方

3.高森町が目指すあり方について

説明資料 (P1~P24)

Q：小学校の保護者へ説明した際に質問や意見などあったか。

A：南小学校にて、すでにクラブとして動き始めている団体所属の保護者から、資格取得の補助はあるか質問があり、「資格取得補助も含めて検討している。」と回答しました。また、広域連携をした場合の学校とクラブとの連絡調整の方法について質問があり、「現在具体的な策はないが、情報共有できるように講じていきたい。」と回答しました。

Q：指導者は集まりそうか。

A：現在の部活動には外部指導員・アドバイザーがいる部活動もあります。今後中学校の部活動へ具体的なヒアリングを実施して、現在関わっている方が指導者を受けられるか、その他指導者情報を持っていないかなど確認を行います。

また、人材バンクの活用も検討していますが、具体的にはヒアリング結果などを経て今後検討します。現状で指導者の確保については明確になっていません。

Q：実際に指導者を募る場合は、条件を整える必要があるのではないか。指導者を選べる方が質の良い指導者を確保できると思う。(意見)

Q：現状では高森町のスポーツ少年団で活動していた子どもたちの受け皿として行っているが、他の地域から入りたいという希望も受けている。認定地域クラブでは、他の地域の子どもを受け入れは可能なのか。

A：費用負担を町が担う場合の一番の課題の一つだと捉えています。

他の地域からの参加を否定するわけではないですが、町が費用負担しているクラブに他市町村の子どもが参加する場合の費用負担の在り方が課題です。

例えば、広域で負担金を出し合ってクラブ化すれば、その連携内の住民は当然参加できます

が、広域で組織した場合でも、広域連携を越える行き来は生じると思います。枠を越える際の良い取り扱いについては明確な対応策がまだ見出せていません。

Q：高森町の子どもが他の自治体で活動したい場合の支援について考えはあるのか。

A：上記同様です。

Q：飯田市でクラブを立ち上げた。その際に、「飯田市」に限らず広く対象にしようと考え、現在南信州圏域として、北は松川町から南は下條村まで、80人くらいいる。

本競技では、県外の選手でも県内のクラブに登録すれば県内の大会に出られるルールのため、どのクラブチームも広く選手を集めて登録し、勝つためのクラブ運営になっている。大会では、クラブチームがほとんど勝っているのが現状。

大会出場できるクラブ規定を見直す動きもあり、同一学校所属でないとクラブとして認めないと国から示されたこともあるが、長野県中体連の該当競技部が大反対して広域も認められることとなった経過がある。他地区から強い選手を集めているチームが増えてきている。隣の自治体のチームに素晴らしい指導者がおり、そこに行きたいと思う子どもへの対応が大きな課題だと感じる。

A：現在の国のガイドライン案でも、広域でのクラブ間の行き来については解釈が曖昧です。自治体やクラブで差が生じる懸念もあります。課題の一つだと捉えています。

4.令和7年度実証事業の進捗状況

説明資料（P25～P28）

Q：広域のクラブ間での選手の行き来について、全国的な事例などはあるか？

A：既に広域実施している例もありますが、新たな国のガイドラインが示される前と後とは状況が異なると考えています。新たなガイドライン下での「認定地域クラブ」への広域間の参加としては、認定条件にエリアを設けることが予想されます。今後は広域連携する自治体の足並みを揃える必要も生じるとかと思えます。

Q：地域クラブに移行した場合、教員（小学校等含む）を活用という情報を報道等で耳にしているが、地域クラブの活動を何時から始めることになるのか。部活動は16時30分頃から始めていた。学校の業務を考えたときに、その時間から教員が兼職兼業でクラブの指導にあたることは可能なのか？

A：

①業務に併せて先生方は調整しているため、一概に不可とは考えていません。

②今は業務として子どものために頑張っていますが、正直大変だと感じる部分もあります。また、異動で住居が変わる先生もいるため、ずっと指導していくのは難しいと感じます。

Q：今は助走期間であり、人材確保が重要。現状はクラブ単位で大会に出場するには、公認コーチの資格が必要である。この助走期間（1年間程度か？）に各競技で公認コーチの資格を取り、指導ができる人材を育成しなければこの構想の実現は難しいと思う。

「アスリートファースト」はもう古い。今は「アスリートセンタード」である。（意見）

Q：一流を目指す子どももいれば、友達と一緒にやってみようという子どももいる。同じクラブでも、トップを目指すコースと、友達と時間を過ごすためのコースなど、分けて運営する必要があるのではないか。（意見）

指導者の募集方法はどのように考えているか。指導者育成は誰が担うのか。

A：指導者の資格取得はお願いしていくことになると考えていますが、安全管理の研修等については、研修会の開催や受講の機会を運営側で設けながら、指導者育成していくことになると考えています。

Q：他自治体の話だが、交響楽団に指導者募集の案内が来た事例があるが、交響楽団の皆さんは自分が演奏することが好きな人たちなので、ターゲットが違うのではないかと思ったことがある。募集の方法、ターゲットは考えようがあるのでは。（意見）

Q：吹奏楽は指揮者が必要である。それをこれまでは音楽教員が務めていた。それでも、できる人もいればできない人もいる。一般の方になればさらに、楽器の指導はできるが、大会で指揮を振れる人は少ないと思う。人材を探すのは難しいと感じる。吹奏楽の指導者は、資格は不要（存在していないのでは）。誰でもなれるが荷は重い。（意見）

Q：地域クラブになり指導者が代わると、辞める人も増えそう。そうなった場合の、新しいジャンルのクラブの創設も必要ではないかと思う。（意見）

Q：強化目的と裾野を広げる目的とある中で、現在運営している強化クラスでは認定クラブにはなれないと思う。拠点は高森町だが、選手クラスにいる高森町の子は数人である。認定されるには新しくコースを設立する必要があるが、選手クラスを持っている指導者がそちらのコースを指導する余裕はなく、新たな指導者の確保となると、新たなコースの設立自体が難しいと感じる。

町などからの補助が入って運営している団体では、負担自治体に居住しているか否かで参加費に差をつける方法も一つではないか。（意見）

(3)連絡事項

(4)閉会